

仙台の街を彩る展示に村産の花

生花事業とデザインを手がける株式会社ときめきどろ（宮城県仙台市）がJR仙台駅に直結する商業ビルの5周年企画でフラワーウォールを制作。そのメンテナンスに合わせて高橋日出夫さん（関根・松塚）のアルストロメリアを展示に取り入れました。同社代表取締役の千葉充さんは、東北各地の園芸を取材する中で村を訪れ、飯館産のアルストロメリアに出会いました。「花付きがよく最高の品質。展示の説明をする機会などに生産者さんの想いも伝えました」と千葉さん。花々は3月初旬まで仙台の街を彩りました。



手づくりの木製看板を寄贈

渡邊富士男さん（飯樋町）が、飯館村社会福祉協議会をはじめとする村内事業所に、手作りの木製看板を寄贈しました。同協議会の看板が経年劣化してきていると感じて、「訪れる方が分かりやすいように」と思いを込めて制作したそうです。他にも草野地区にオープンしたラーメン店「麺屋 骨道」、定食屋「芳頼 神八」にも看板を寄贈。木の温もりあふれる看板が、訪れる人々を迎えています。



サクラ・シスターズがJAふくしま未来とパートナーシップ協定を締結

3月5日、株式会社サクラ・シスターズ（上飯樋）が、JAふくしま未来と、県産モモの台湾への輸出再開に向けたパートナーシップ協定を締結しました。同社はこれまでも福島と台湾の架け橋となる事業を展開しており、今後は協定に基づき、同JAのモモの魅力の発信と販路開拓にも取り組みます。

早速、4月に約3,000本が輸出される同JAの果汁100%のモモジュース「桃の恵み」については、飲食店との調整や消費者に向けた発信を担います。また、生果のモモの輸出再開を目指す収穫期に向けては、これまで培ってきたネットワークを生かして、販路の確保をサポートしていきます。



同社がプロデュースする「福島もも娘」のメンバーも出席。飯館村企業型地域おこし協力隊でもあるMAKOこと下野真心さん（左）は「品種により味わいや食感が異なる福島のモモの魅力を伝えていきたい」とコメント。



パートナーシップ協定の締結式はJA桑折宮農センター（桑折町）で行われました。JAふくしま未来の常務理事・西幸夫さん（左から2人目／八木沢・芦原）は「福島の農産物が安心しておいしいことをPRしていきたい」と、株式会社サクラ・シスターズの峯岸ちひろ社長（同3人目）は「気合を入れて福島のモモの魅力を発信したい」と意気込みを語りました。

「までい牛」が里帰り 道の駅で精肉販売会

3月28日、いたて村の道の駅までい館で、『までい牛 精肉販売会』が行われました。本企画は、道の駅が、飯館村村政施行70周年の記念企画として実施したものです。

「までい牛」とは、村をあげて生産に取り組んでいた銘柄牛「飯館牛」の血統を受け継ぐ黒毛和牛で、震災により千葉県山武市に避難した小林将男さん（関沢）が、共に避難した飯館牛の血統を守り、大切に育ててきたものです。

当日は、開店前から多くの来店客が列をつくり、にぎわいました。きれいにサシの入ったカルビやロースを購入した方は、「小林さんが千葉で頑張っていると知って、食べてみたいと思いました。早速焼肉にして食べたいです」とうれしそうに話していました。また、小林さんの同級生も「までい牛」の購入に訪れていて、故郷を離れて奮闘する小林さんを想い、「健康でいてくれたらうれしい。これからも頑張ってもらいたい」と、応援の気持ちを話していました。



永井川カフェ「いちご狩り」へ

村民同士の交流会を多彩に実施している「愉快的幸せカフェ永井川」（代表世話人・佐藤俊雄さん／草野）が、3月10日に、和田観光いちご園（相馬市）でいちご狩りを行いました。いちご狩りは、同カフェ恒例のイベントで、今年は20人が参加しました。

同カフェは、年間を通してさまざまな活動を行っていて、広報お知らせ版でも、イベントごとに参加者を募っています。興味のある方はぜひご参加ください。



「あぶロマ」いわき市で物産フェア

2月6日・7日、JRいわき駅前の商業施設LATOV（ラトブ／いわき市）で『あぶくまロマンチック街道 沿線地域物産フェア』が開かれました。主催は村も加盟する「399号あぶくまロマンチック街道沿線自治体連絡協議会」です。村からは「ニコニコ菅野農園」と「菓子工房Cocitto」が出店し、ナツハゼのジャムやポン酢、焼き菓子などを販売しました。「あぶロマ」のおいしい逸品を多くの来店客が手に取り、事業者との交流も楽しんでいました。

